

一人一人の表現力を育てよう

八児小スタンダード

日々の授業で、解決・表現・伝え合いが充実すればこそ、子どもの思考力・表現力・判断力が育ち、基礎的・基本的な内容の定着が図られ、そこで培われる「言葉の力」が他の学習にも波及していきます。

子どもに学習スキルの自己評価を行うことで、次のレベルに対するめあてをもつことができ、授業を通して学び方を教え、学び方を自ら学ぶことにつながることができます。

<学習スキルのレベル表>

段階	書くスキル	話すスキル	聞く・質問するスキル
A	<ul style="list-style-type: none"> ○見通しや計画に従って、考えの根拠を明確にして書く。 ○ねらいに沿ったまとめを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○根拠となる事実を資料や例として明確に示しながら話す。 ○聞き手の反応を確かめながら話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大切なことをメモして、話し手の意図をつかみながら聞く。 ○納得できないことに質問・反論する。
B	<ul style="list-style-type: none"> ○手順や理由を整理して考えを書く。 ○自分の考えの補足や訂正ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事実と理由を区別して、明確に話す。 ○相手に同意を求めながら話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えと比較しながら聞く。 ○不明な点について質問する。
C	<ul style="list-style-type: none"> ○考えを図、表、言葉などで書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図や表、具体物を理由として示しながら話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手に反応しながら聞く。 ○発表を聞いてメモをする。
D	<ul style="list-style-type: none"> ○操作や手順の順序を考えて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○順序よく自分の考えを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手を見て、話を最後まで聞く。
E	<ul style="list-style-type: none"> ○「ノート使用の約束」に従って書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最後まではっきりと聞こえる声で話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手を見て、話を聞く。

※期待する具体的な表現力をもった子どもの学びの姿を「A」としています。

※学習の約束が守れる段階「E」から、期待する学びの姿を基に「A」までを系統化しています。

※小学校全学年を通じての学習スキルのレベル表としています。高学年は「A」、中学年は「C」、低学年は「D」程度のスキルを身に付けることを目標にしましょう。

※学習スキル・自己評価カードの例（低学年「はっぴょうするちから」）

レベル	○	これができたら○
☆		みんなに聞こえるこえではなすことができます。
		「です」「ます」をつかって、さいごまではっきりとはなすことができます。
☆☆		「まず」「つぎに」などをつかって、せつめいができます。
☆☆☆		ずやおはじき、ブロックなどをみせて、りゆうをきちんとはなすことができます。

日々「発問」チェックポイント

八児小スタンダード

本時のねらいに迫る段階において、子どもの漠然とした概念を揺さぶり、疑問を持たせて納得できるように説明できるようにしていくことが大切です！

＜伝え合いに関する発問＞

- 子どもに説明を求める発問である。
- 子ども同士の伝え合いを促す発問である。
- 表現を強調して、全体に確認するための発問である。
- 「なぜ？」「どうして？」など短く繰り返す発問がある。

＜伝え合いを活性化するための発問＞

- ステップのねらいに応じた発問である。
- 思考を促す発問である。
- 方法に関係した考え方の発問である。
- 内容に関係した考え方の発問である。

発問の「引き出し」がたくさんあるほど、練り上げでのとっさの問いかけや切り返しがうまくいくようになります。
私達教師に必要なスキルとして、日々自主的にトレーニングを積み重ねていきましょう。

※ねりあげ（比較検討）の段階におけるステップに応じた発問

	発問の意図	発問例
① 妥当性の検討	根拠の確認 妥当性の検討 誤りの確認 つまずきの確認 共感的な理解 肯定的な評価 表現の確認と変更 手順の確認	「何を基にしたの？」 「どの考え（既習）を基にしているの？」 「答えは正しそうだけど、本当にいいの？」 「困ったこと、足りないことは？」 「その答えは本当に正しくないの？」 「わかっていることと、わからないことは？」 「〇〇さんは、なぜそう考えたの？」 「このように考えたら確かにそうなるの？」 「何を用いて表したの？」 「他の表し方はないの？」 「どのような順序で考えたの？」
② 関連性の検討・有効	考えの検討 他の考えとの比較 反例の確認	「どこに目を付けたの？」 「〇〇さんの考えのよさは何？」 「似ている考えは？なぜ？」 「どの考えが活かされている？」 「〇〇さんの考え方が正しいとして、同じようにして考えていいの？」
③ 解決方法の選択	一般性の検討 方法の選択 学んだことの確認 振り返り	「条件を変えると考えはどうなるの？」 「条件が変わっても同じことが言えるの？」 「その考えはいつでも言えるの？」 「次に使ってみたい考えはどれ？なぜ？」 「この考えを選ばないのはなぜ？」 「次に同じ問題が出てきたら簡単にできる？」 「解決できたのは何を学んでいたから？」 「何がわかったの？」「何が言えるの？」

他に…例えば、発表で伝わりづらいことを先生が、つい補足説明してしまうよりも、

- 「いいアイデアだと思うけど、もっと詳しく説明できないかな？」
- 「〇〇くんの考えのいいところを説明してくれないかな？」

発問は、様々な学習場面で意図をもって問いかけることで、価値を高めていくことにつながります。